

運用報告書 (全体版)

第39期<決算日2025年6月16日>

新光ジャパンオープンⅡ

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2005年12月16日から2025年12月15日までです。	
運用方針	主として新光ジャパン マザーファンドへの投資を通じてわが国の株式へ投資することで、投資信託財産の成長を目指して積極的な運用を行います。	
主要投資対象	新光ジャパンオープンⅡ	新光ジャパン マザーファンド受益証券
	新光ジャパンマザーファンド	わが国の取引所上場株式
運用方法	主として新光ジャパン マザーファンドへの投資を通じてわが国の株式へ投資することで、積極運用を行います。 株式の実質組入比率は高位を保ちます。 資金動向、市場動向等を勘案し、マザーファンドと同様の運用方針に基づき、直接有価証券に投資する場合があります。	
組入制限	新光ジャパンオープンⅡ	株式への実質投資割合には制限を設けません。
	新光ジャパンマザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。原則として決算日における収益分配前の1万口当たりの基準価額が1万円を超過している場合、分配後の基準価額が1万円近くになるよう分配します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「新光ジャパンオープンⅡ」は、2025年6月16日に第39期の決算を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

<運用報告書に関するお問い合わせ先>

コールセンター：0120-104-694

受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで

お客さまのお取引内容につきましては、購入された

販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2

<https://www.am-one.co.jp/>

新光ジャパンオープンⅡ

■最近５期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			日経平均トータルリターン・インデックス		東 証 株 価 指 数 (TOPIX)(配当込み)		株式組入比率	株式先物比率	純 資 産 額
	(分配落)	税込み 分配金	期 中 騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率			
	円	円	%		%	ポイント	%	%	%	百万円
35期 (2023年 6 月15日)	10,004	600	12.5	58,102.64	20.8	3,809.16	17.9	93.3	－	2,880
36期 (2023年12月15日)	9,989	0	△0.1	57,748.51	△0.6	3,915.05	2.8	92.0	－	2,702
37期 (2024年 6 月17日)	10,002	2,080	21.0	67,342.13	16.6	4,587.01	17.2	88.8	－	2,472
38期 (2024年12月16日)	10,009	470	4.8	70,362.25	4.5	4,705.08	2.6	92.6	－	2,461
39期 (2025年 6 月16日)	10,009	1,270	12.7	69,021.38	△1.9	4,836.29	2.8	93.4	－	2,356

- (注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。
- (注2) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。
- (注3) 株式先物比率は、買建比率－売建比率です。
- * 参考指数の変更に伴い、2025年6月16日決算の運用報告書から「配当込み」の指数に変更しました（以下同じ）。
- (注4) 「日経平均株価」および「日経平均トータルリターン・インデックス」（以下、「日経平均株価」といいます。）に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は株式会社日本経済新聞社に帰属します。株式会社日本経済新聞社は「日経平均株価」を継続的に公表する義務を負うものではなく、その誤謬、遅延または中断に関して責任を負いません。また、当ファンドについて、株式会社日本経済新聞社は一切の責任を負うものではありません（以下同じ）。
- (注5) 東証株価指数（TOPIX）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利は J P X が有しています。J P X は、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません（以下同じ）。
- (注6) △（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

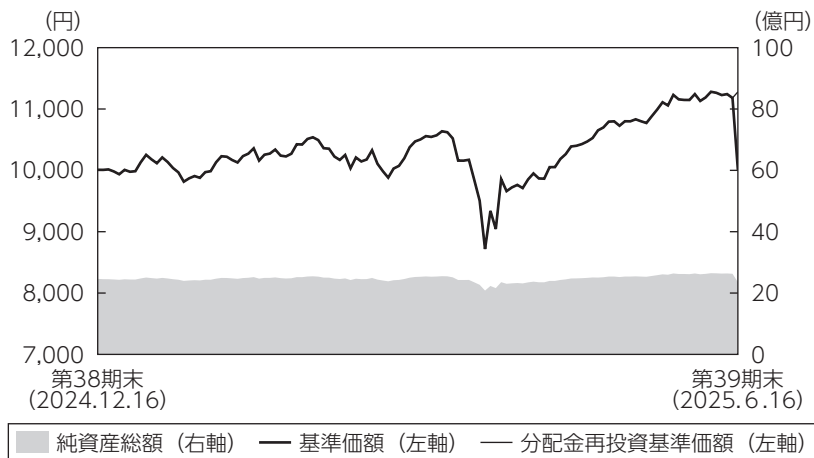
■当期中の基準価額と市況の推移

年 月 日	基 準 価 額		日経平均トータルリターン・インデックス		東 証 株 価 指 数 (TOPIX)(配当込み)		株式組入比率	株式先物比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期 首)	円	%		%	ポイント	%	%	%
2024年12月16日	10,009	－	70,362.25	－	4,705.08	－	92.6	－
12月末	10,179	1.7	71,223.93	1.2	4,791.22	1.8	93.4	－
2025年 1 月末	10,359	3.5	70,652.77	0.4	4,797.95	2.0	97.0	－
2 月末	10,034	0.2	66,381.33	△5.7	4,616.34	△1.9	93.4	－
3 月末	10,159	1.5	64,164.99	△8.8	4,626.52	△1.7	96.2	－
4 月末	10,389	3.8	64,938.64	△7.7	4,641.96	△1.3	96.5	－
5 月末	11,157	11.5	68,397.62	△2.8	4,878.83	3.7	94.8	－
(期 末)								
2025年 6 月16日	11,279	12.7	69,021.38	△1.9	4,836.29	2.8	93.4	－

- (注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。
- (注2) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。
- (注3) 株式先物比率は、買建比率－売建比率です。

■当期の運用経過（2024年12月17日から2025年6月16日まで）

基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

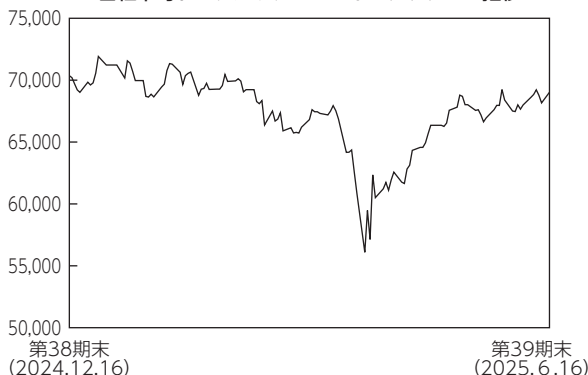
基準価額の主な変動要因

当ファンドは新光ジャパン マザーファンドを主要投資対象としており、わが国の株式に実質的に投資しています。基準価額（分配金込み）は上昇しました。新光ジャパン マザーファンドでは、個別銘柄では、三菱重工業、IHI、楽天銀行などが基準価額のプラス要因となりました。一方、ニトリホールディングス、富士電機、住友林業などが基準価額のマイナス要因となりました。

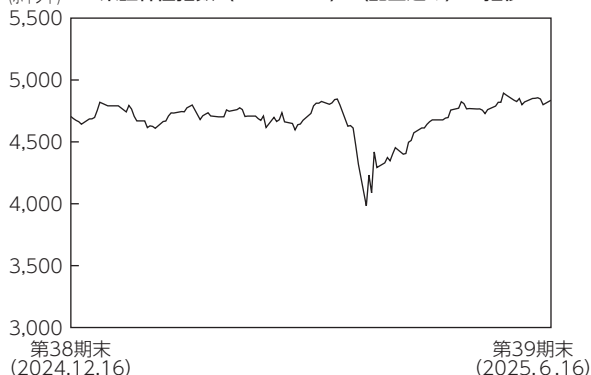
投資環境

国内株式市場は、米国トランプ政権への警戒感から上値の重い展開で始まりました。2025年4月には、トランプ政権が市場予想を大幅に上回る相互関税を発表し、経済活動への影響が懸念され急落しました。その後は、関税施策の一時停止や各国との貿易交渉開始、日本銀行の利上げ姿勢が軟化したことなどを好感し回復傾向となりました。

＜日経平均トータルリターン・インデックスの推移＞



＜東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) の推移＞



ポートフォリオについて

●当ファンド

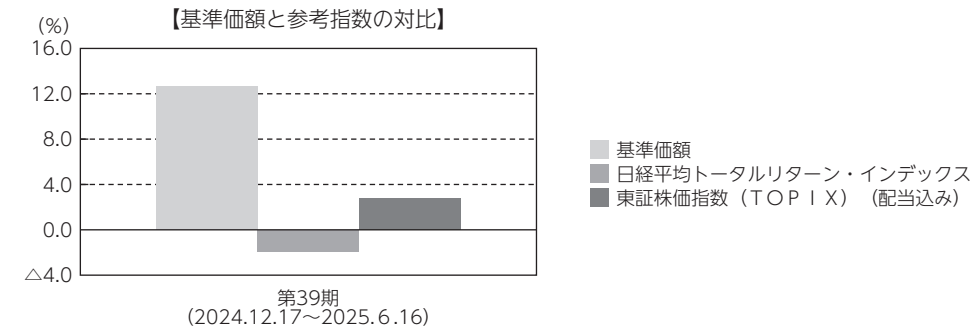
新光ジャパン マザーファンドを主要投資対象とし、新光ジャパン マザーファンド受益証券を高位に組み入れた運用を行いました。株式の実質組入比率は90%程度以上とする積極運用を行いました。

●新光ジャパン マザーファンド

わが国の株式へ投資することで投資信託財産の成長を目指して積極的に運用を行いました。特定のベンチマークは設けず、値上がりが見込める銘柄の発掘に最大の力を注ぎ、収益の源泉を銘柄効果に求める徹底した銘柄重視の運用を行いました。株式組入比率は原則として、90%以上とする積極運用を基本としました。売買では、三菱電機、東京エレクトロンなどの買い付けを行う一方、トヨタ自動車、S MCなどの売却を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。
グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

分配金

収益分配金につきましては基準価額水準等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきました。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期
	2024年12月17日 ～2025年6月16日
当期分配金（税引前）	1,270円
対基準価額比率	11.26%
当期の収益	1,264円
当期の収益以外	5円
翌期繰越分配対象額	401円

- (注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。
- (注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。
- (注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

主として新光ジャパン マザーファンド受益証券を高位に組み入れた運用を行います。株式の実質組入比率は90%程度以上とする積極運用を行います。

●新光ジャパン マザーファンド

わが国の株式へ投資することで投資信託財産の成長を目指して積極的に運用を行います。特定のベンチマークは設けず、値上がりが期待できる銘柄の発掘に最大の力を注ぎ、収益の源泉を銘柄効果に求める徹底した銘柄重視の運用を行います。ポートフォリオに組み入れる銘柄数は、50銘柄程度を基本とし、積極的に銘柄効果を追求します。株式組入比率は原則として、90%以上とする積極運用を基本とします。

トランプ関税の直接的な業績へのマイナス影響は限定的な企業も多く、さらに成長が期待できる企業もあります。また、影響のある輸出企業でも、影響が出るまで時間がかかったり、対応措置などもあります。

引き続き、トランプ政権の政策による業績へのマイナス影響が限定的な企業で成長が期待できる企業に加えて、短期的な業績不透明感はあるものの競争力があり中長期的な成長性から見て割安感が出てきている企業への投資も行っていく方針です。

コスト上昇に対応するためのデジタル化投資、半導体やエネルギー、防衛分野などで見られる国内産業再建に向けた投資、AIなどのテクノロジー分野やエンターテインメント分野の成長、上場企業の経営変化などに注目し、成長性や業績拡大が期待でき、株価指標に割安感のある企業に投資していく方針です。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第39期		項目の概要
	(2024年12月17日 ～2025年6月16日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	85円	0.823%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,317円です。
（投信会社）	(40)	(0.384)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
（販売会社）	(40)	(0.384)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(6)	(0.055)	受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.022	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（株式）	(2)	(0.022)	売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(c) その他費用 （監査費用）	0 (0)	0.001 (0.001)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	87	0.845	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

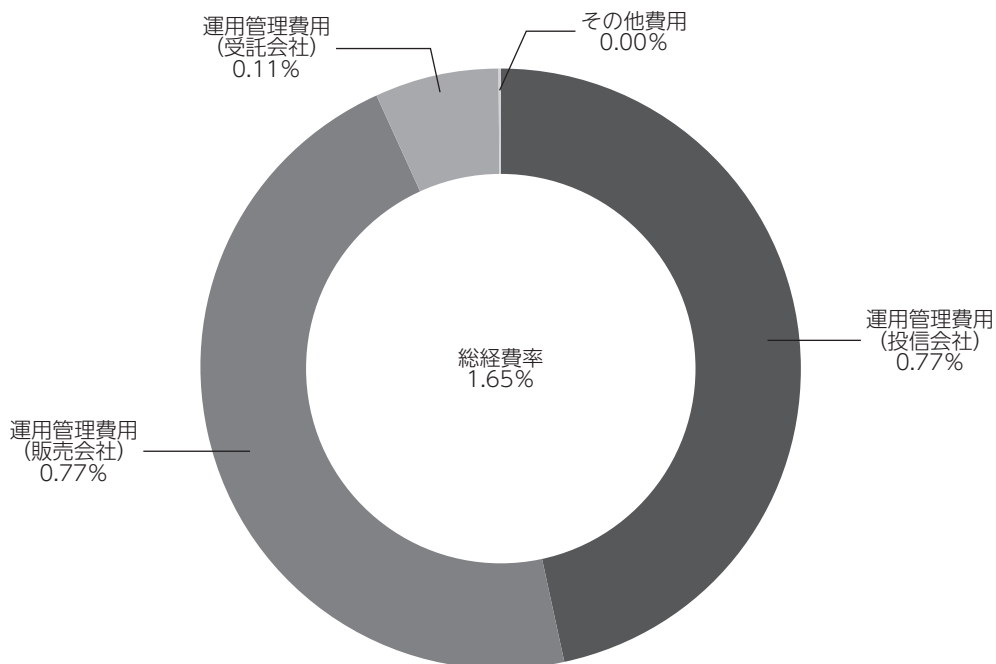
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1 万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

◆総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.65%です。



(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■親投資信託受益証券の設定、解約状況（2024年12月17日から2025年6月16日まで）

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
新光ジャパン マザーファンド	千口 9,136	千円 95,650	千口 46,227	千円 532,950

■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	新光ジャパン マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	1,191,407千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	2,445,760千円
(c) 売 買 高 比 率 (a)／(b)	0.48

(注) (b)は各月末の組入株式時価総額の平均です。

■利害関係人との取引状況等（2024年12月17日から2025年6月16日まで）

【新光ジャパンオープンⅡにおける利害関係人との取引状況等】

(1) 期中の利害関係人との取引状況

期中の利害関係人との取引はありません。

(2) 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売 買 委 託 手 数 料 総 額 (A)	539千円
う ち 利 害 関 係 人 へ の 支 払 額 (B)	31千円
(B)／(A)	5.8%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

【新光ジャパン マザーファンドにおける利害関係人との取引状況等】
 期中の利害関係人との取引状況

決 算 期		当 期				
区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B／A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D／C
株 式	百万円 404	百万円 26	% 6.6	百万円 787	百万円 32	% 4.1

平均保有割合 97.0%

(注) 平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドにかかる利害関係人とは、みずほ証券です。

■組入資産の明細
 親投資信託残高

	期 首（前期末）	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
新 光 ジ ャ パ ン マ ザ ー フ ァ ン ド	千□ 226,660	千□ 189,569	千円 2,242,437

<補足情報>

■新光ジャパン マザーファンドの組入資産の明細

下記は、新光ジャパン マザーファンド（196,003,501口）の内容です。

国内株式

銘柄	2024年12月 16日現在		2025年6月16日現在	
	株数	株数	評価額	
	千株	千株	千円	
建設業（5.3%）				
鹿島建設	20	9.9	36,174	
住友林業	9	9	38,826	
関電工	22	14.4	45,864	
食料品（1.2%）				
東洋水産	3	2.9	27,190	
化学（4.9%）				
大阪ソーダ	—	13	22,295	
信越化学工業	—	11.5	50,991	
三菱瓦斯化学	18.9	—	—	
東京応化工業	10	10.1	38,470	
医薬品（—%）				
ロート製薬	10.6	—	—	
非鉄金属（3.4%）				
三井金属鉱業	6	5.4	25,655	
住友電気工業	17	—	—	
フジクラ	9	7.7	52,783	
機械（11.1%）				
ディスコ	0.9	0.9	31,095	
三井海洋開発	9	8.6	50,138	
S M C	0.9	—	—	
小松製作所	10	6	26,808	
ダイキン工業	2	—	—	
三菱重工業	31	25	89,550	
I H I	—	3.5	55,492	
電気機器（23.8%）				
イビデン	7.4	9	53,658	
日立製作所	22	21.1	84,695	
三菱電機	—	23	67,976	
富士電機	5.5	5.3	34,243	
日本電気	4.5	17.5	70,630	
ソニーグループ	35	35.5	132,628	
キーエンス	0.5	0.5	28,940	
村田製作所	9	—	—	
東京エレクトロン	0.9	2.9	69,643	
輸送用機器（1.5%）				
トヨタ自動車	23.8	—	—	
スズキ	—	20	34,040	
その他製品（4.6%）				
アシックス	15	14.8	50,320	
任天堂	4.8	4.6	54,947	
海運業（—%）				
商船三井	7	—	—	

銘柄	2024年12月 16日現在		2025年6月16日現在	
	株数	株数	評価額	
	千株	千株	千円	
情報・通信業（11.3%）				
インターネットイニシアティブ	14	13.4	37,855	
さくらインターネット	—	4	16,200	
東宝	8.5	6.3	50,179	
カプコン	13	10.8	49,950	
S C S K	—	6.3	27,486	
コナミグループ	3	2.2	45,793	
ソフトバンクグループ	4	3.6	30,596	
卸売業（2.2%）				
三菱商事	18.8	—	—	
サンリオ	11.5	7.5	50,737	
小売業（6.4%）				
セリア	15	9.5	25,108	
パル・パシフィック・インターナショナルホールディングス	15	11.5	53,647	
スギホールディングス	10	9.6	30,316	
ニトリホールディングス	2.8	2.5	35,762	
銀行業（9.8%）				
楽天銀行	12.5	7.2	53,280	
三菱UFJフィナンシャル・グループ	56	50.3	98,235	
ふくおかフィナンシャルグループ	9	8	31,968	
北洋銀行	74.1	66.5	38,570	
保険業（3.5%）				
東京海上ホールディングス	13	13.5	79,920	
その他金融業（1.0%）				
オリックス	18	7	21,665	
不動産業（4.2%）				
オープンハウスグループ	5	6.7	41,988	
三井不動産	45	40.4	54,115	
サービス業（5.6%）				
リゾートトラスト	10	19.2	31,190	
サイバーエージェント	—	34.1	51,422	
ペイカレント	9.5	6	45,270	
合 計	株数・金額	千株	千株	千円
	682.4	628.2	2,274,316	
銘柄数<比率>	49銘柄	48銘柄	<98.1%>	

（注1）銘柄欄の（ ）内は、2025年6月16日現在の国内株式評価額に対する各業種の比率です。

（注2）合計欄の< >内は、2025年6月16日現在のマザーファンド純資産総額に対する評価額の比率です。

（注3）評価額の単位未満は切捨ててあります。

■投資信託財産の構成

2025年6月16日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
新 光 ジ ャ パ ン マ ザ ー フ ァ ン ド	千円 2,242,437	% 83.8
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	433,264	16.2
投 資 信 託 財 産 総 額	2,675,701	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨ててあります。％は、小数点第2位を四捨五入しています。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2025年6月16日)現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	2,675,701,883円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	380,964,223
新光ジャパン マザーファンド(評価額)	2,242,437,660
未 収 入 金	52,300,000
(B) 負 債	319,381,774
未 払 収 益 分 配 金	298,980,763
未 払 解 約 金	1,889
未 払 信 託 報 酬	20,379,917
そ の 他 未 払 費 用	19,205
(C) 純 資 産 総 額(A－B)	2,356,320,109
元 本	2,354,179,243
次 期 繰 越 損 益 金	2,140,866
(D) 受 益 権 総 口 数	2,354,179,243口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C／D)	10,009円

(注) 期首における元本額は2,459,467,348円、当期中における追加設定元本額は23,847,254円、同解約元本額は129,135,359円です。

■損益の状況

当期 自2024年12月17日 至2025年6月16日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	57,006円
受 取 利 息	57,006
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	318,073,159
売 買 益	322,293,912
売 買 損	△4,220,753
(C) 信 託 報 酬 等	△20,399,122
(D) 当 期 損 益 金(A＋B＋C)	297,731,043
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	62,101,024
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△58,710,438
(配 当 等 相 当 額)	(33,550,889)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△92,261,327)
(G) 合 計(D＋E＋F)	301,121,629
(H) 収 益 分 配 金	△298,980,763
次 期 繰 越 損 益 金(G＋H)	2,140,866
追 加 信 託 差 損 益 金	△58,710,438
(配 当 等 相 当 額)	(33,550,889)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△92,261,327)
分 配 準 備 積 立 金	60,851,304

(注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注2) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注4) 分配金の計算過程

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	52,926円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	297,678,117
(c) 収 益 調 整 金	33,550,889
(d) 分 配 準 備 積 立 金	62,101,024
(e) 当期分配対象額(a＋b＋c＋d)	393,382,956
(f) 1 万 口 当 た り 当 期 分 配 対 象 額	1,671.00
(g) 分 配 金	298,980,763
(h) 1 万 口 当 た り 分 配 金	1,270

■分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金

1,270円

※分配金を再投資する場合、分配金は税引後自動的に無手数料で再投資されます。

分配金の課税上の取扱いについて

- ・追加型株式投資信託の分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
 - 分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
 - 分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、分配金から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における受益者毎の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の受益者毎の個別元本となります。

《お知らせ》

約款変更のお知らせ

■当ファンドおよび当ファンドが投資対象とする「新光ジャパン マザーファンド」において、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、「運用報告書の交付」を「運用状況にかかる情報の提供」に変更しました。

(2025年4月1日)

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供を進めてまいります。

新光ジャパン マザーファンド

運用報告書

第22期（決算日 2024年11月10日）

（計算期間 2023年11月11日～2024年11月10日）

新光ジャパン マザーファンドの第22期の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信 託 期 間	原則、無期限です。
運 用 方 針	主としてわが国の株式へ投資することで、投資信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。全上場株式から、一株当たり株主資本、企業業績、株価水準等により信用度が低いと判断される銘柄、ならびに時価総額、株主資本比率、株式の売買状況等により財務健全性と株式の流動性が劣ると判断される銘柄を除いた銘柄群を調査対象とします。当該調査対象銘柄から、企業からの直接取得した情報に基づく業績予想に加え、長期的な成長性や情報開示姿勢も考慮した上で投資対象候補銘柄を選定します。投資対象候補銘柄については、さらに綿密な企業調査を行い、企業の予想利益等に基づく妥当株価を算定した上で期待収益率を算出します。
主 要 投 資 対 象	わが国の取引所上場株式を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	株式への投資割合には制限を設けません。

■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		日経平均株価(225)		東証株価指数(TOPIX)		株式組入 比 率	株式先物 比 率	純 資 産 総 額
	円	期騰落率 %	(参考指数)	期騰落率 %	(参考指数)	期騰落率 %			
18期(2020年11月10日)	59,108	35.9	24,905.59	6.5	ポイント 1,700.80	△0.1	96.9	—	百万円 3,882
19期(2021年11月10日)	74,901	26.7	29,106.78	16.9	2,007.96	18.1	96.8	—	3,383
20期(2022年11月10日)	70,247	△6.2	27,446.10	△5.7	1,936.66	△3.6	93.8	—	3,335
21期(2023年11月10日)	81,086	15.4	32,568.11	18.7	2,336.72	20.7	94.4	—	3,556
22期(2024年11月10日)	102,679	26.6	39,500.37	21.3	2,742.15	17.4	96.1	—	2,610

- (注1) 株式先物比率は、買建比率－売建比率です。
- (注2) 「日経平均株価」および「日経平均トータルリターン・インデックス」（以下、「日経平均株価」といいます。）に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は株式会社日本経済新聞社に帰属します。株式会社日本経済新聞社は「日経平均株価」を継続的に公表する義務を負うものではなく、その誤謬、遅延または中断に関して責任を負いません。また、当ファンドについて、株式会社日本経済新聞社は一切の責任を負うものではありません。（以下同じ）。
- (注3) 東証株価指数（TOPIX）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJ P Xが有しています。J P Xは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P Xにより提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません（以下同じ）。
- (注4) △（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

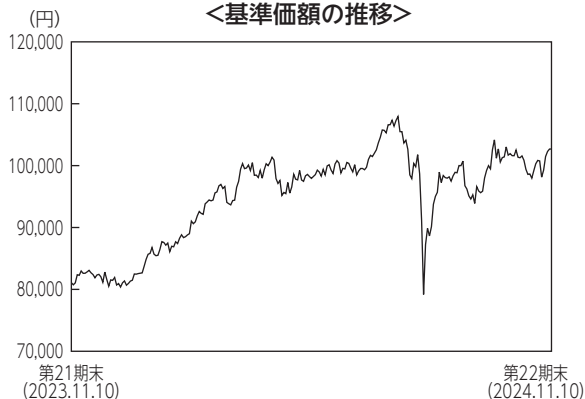
■当期中の基準価額と市況の推移

年 月 日	基 準 価 額		日経平均株価(225)		東証株価指数(TOPIX)		株式組入 比 率	株式先物 比 率
		騰落率	(参考指数)	騰落率	(参考指数)	騰落率		
(期 首) 2023 年 11 月 10 日	円 81,086	% —	円 32,568.11	% —	ポイント 2,336.72	% —	% 94.4	% —
11 月 末	82,326	1.5	33,486.89	2.8	2,374.93	1.6	94.8	—
12 月 末	82,554	1.8	33,464.17	2.8	2,366.39	1.3	95.0	—
2024 年 1 月 末	87,693	8.1	36,286.71	11.4	2,551.10	9.2	96.7	—
2 月 末	94,432	16.5	39,166.19	20.3	2,675.73	14.5	96.4	—
3 月 末	100,477	23.9	40,369.44	24.0	2,768.62	18.5	96.1	—
4 月 末	98,598	21.6	38,405.66	17.9	2,743.17	17.4	97.4	—
5 月 末	100,256	23.6	38,487.90	18.2	2,772.49	18.6	97.1	—
6 月 末	102,003	25.8	39,583.08	21.5	2,809.63	20.2	94.1	—
7 月 末	101,768	25.5	39,101.82	20.1	2,794.26	19.6	96.6	—
8 月 末	100,009	23.3	38,647.75	18.7	2,712.63	16.1	95.9	—
9 月 末	101,199	24.8	37,919.55	16.4	2,645.94	13.2	96.5	—
10 月 末	100,760	24.3	39,081.25	20.0	2,695.51	15.4	96.5	—
(期 末) 2024 年 11 月 10 日	102,679	26.6	39,500.37	21.3	2,742.15	17.4	96.1	—

(注1) 騰落率は期首比です。
(注2) 株式先物比率は、買建比率－売建比率です。

■当期の運用経過（2023年11月11日から2024年11月10日まで）

＜基準価額の推移＞



基準価額の推移

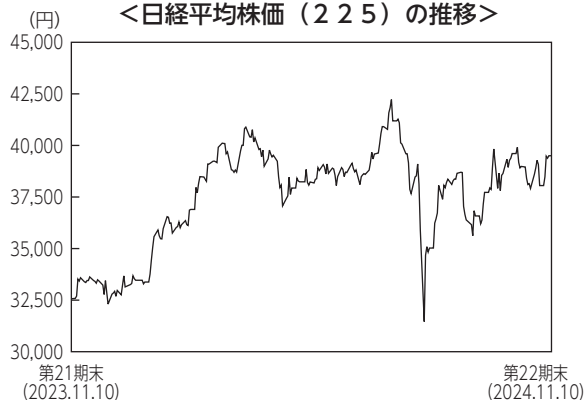
当ファンドの基準価額は102,679円となり、前期末比で26.6%上昇しました。

基準価額の主な変動要因

わが国の株式へ投資することで投資信託財産の成長を目指して積極的に運用を行いました。

業種別には、機械、電気機器などの上昇がプラス寄与となる一方、輸送用機器、繊維製品などがマイナス要因となりました。個別銘柄では、フジクラ、三菱重工業、日立製作所などが上昇に寄与しました。一方、トヨタ自動車、SHIFT、ダイキン工業などが基準価額のマイナス要因となりました。

＜日経平均株価（225）の推移＞



投資環境

国内株式市場は上昇しました。堅調な日本企業の業績動向や円安、海外投資家の日本株買いなどにより上昇傾向で推移しましたが、2024年8月に入り日本銀行の政策金利引き上げなどで急激に円高が進み大幅に下落しました。その後、日本銀行の金融政策への警戒感が低下したことから反発する展開となったものの、国内外の政治状況に不透明感があり、上値の重い展開となりました。

＜東証株価指数（TOPIX）の推移＞



ポートフォリオについて

わが国の株式へ投資することで投資信託財産の成長を目指して積極的に運用を行いました。特定のベンチマークは設けず、値上がり期待できる銘柄の発掘に最大の力を注ぎ、収益の源泉を銘柄効果に求める徹底した銘柄重視の運用を行いました。ポートフォリオに組み入れる銘柄数は、50銘柄程度を基本とし、積極的に銘柄効果を追求しました。株式組入比率は原則として、90%以上とする積極運用を基本としました。

売買では、小松製作所、オリックス、東宝などの買い付けを行う一方、ディスコ、三菱重工業、第一生命ホールディングスなどの売却を行いました。

今後の運用方針

わが国の株式へ投資することで投資信託財産の成長を目指して積極的に運用を行います。特定のベンチマークは設けず、値上がりが見込める銘柄の発掘に最大の力を注ぎ、収益の源泉を銘柄効果に求める徹底した銘柄重視の運用を行います。ポートフォリオに組み入れる銘柄数は、50銘柄程度を基本とし、積極的に銘柄効果を追求します。株式組入比率は原則として、90%以上とする積極運用を基本とします。

東証の市場改革と市場参加者の経営チェック機能の向上は着実に進んでいると考えています。

資本コストや株価を意識した経営は、余剰資金や収益性の低い資産・事業の見直し、会社の成長性や安定性の向上とその積極的な情報発信に繋がってきており、日本株の魅力は中長期的に高まってきていると考えています。

成長性があり業績拡大が見込める企業に注目し、株価指標に割安感のある企業に投資していく方針です。人手不足と賃上げやデジタル化投資、半導体やエネルギー、防衛分野などで見られる国内産業再建に向けた投資、AIなどのテクノロジー分野の成長、国際情勢から見た日本の優位性の高まり、上場企業の経営変化などに注目していきます。

ファンドマネージャー 関口 智信

■ 1 万口当たりの費用明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	85円 (85)	0.090% (0.090)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
合 計	85	0.090	
期中の平均基準価額は95,009円です。			

(注1) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注2) 比率欄は「1 万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況 (2023年11月11日から2024年11月10日まで)
株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内 上 場		千株	千円	千株	千円
		741.7 (306.8)	2,126,629 (-)	1,274.2	3,758,991

(注1) 金額は受渡代金です。
(注2) () 内は株式分割、増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	5,885,621千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	3,138,081千円
(c) 売 買 高 比 率 (a)／(b)	1.87

(注) (b)は各月末の組入株式時価総額の平均です。

■利害関係人との取引状況等（2023年11月11日から2024年11月10日まで）

(1) 期中の利害関係人との取引状況

決 算 期 区 分	当			期		
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B／A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D／C
株 式	百万円 2,126	百万円 318	% 15.0	百万円 3,758	百万円 638	% 17.0

(2) 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売 買 委 託 手 数 料 総 額 (A)	2,929千円
う ち 利 害 関 係 人 へ の 支 払 額 (B)	526千円
(B)／(A)	18.0%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドにかかる利害関係人とは、みずほ証券です。

■組入資産の明細

国内株式

銘柄	期首(前期末) 株数	当 株数	期 評価額	末 株数	期 評価額	末 株数	期 評価額
鉱業 (－%)	千株	千株	千円	千株	千円	千株	千円
INPEX	24	—	—	—	—	—	—
建設業 (6.6%)							
鹿島建設	—	20	54,500	—	—	—	—
五洋建設	76.5	—	—	—	—	—	—
住友林業	20	9	51,930	—	—	—	—
関電工	—	27	58,806	—	—	—	—
食料品 (1.1%)							
ハウス食品グループ本社	21	—	—	—	—	—	—
東洋水産	12	3	26,943	—	—	—	—
繊維製品 (－%)							
デサント	13	—	—	—	—	—	—
化学 (3.5%)							
三菱瓦斯化学	—	18.9	51,351	—	—	—	—
東京応化工業	—	10	36,560	—	—	—	—
関西ペイント	28	—	—	—	—	—	—
ライオン	25	—	—	—	—	—	—
医薬品 (1.4%)							
ロート製薬	20	10.6	35,859	—	—	—	—
鉄鋼 (1.0%)							
日本製鉄	28.1	—	—	—	—	—	—
大同特殊鋼	12.2	21	25,147	—	—	—	—
非鉄金属 (5.2%)							
三井金属鉱業	—	6	28,962	—	—	—	—
住友電気工業	—	17	44,259	—	—	—	—
フジクラ	—	10.5	58,296	—	—	—	—
機械 (10.7%)							
デイスコ	3.3	0.9	39,870	—	—	—	—
平田機工	5.3	—	—	—	—	—	—
三井海洋開発	24	9	31,770	—	—	—	—
S MC	—	0.9	60,678	—	—	—	—
小松製作所	—	10	42,570	—	—	—	—
ダイキン工業	—	1	19,530	—	—	—	—
ホシザキ	15.9	—	—	—	—	—	—
三菱重工業	10	32	74,528	—	—	—	—
電気機器 (18.9%)							
イビデン	9	7.4	39,419	—	—	—	—
日立製作所	9.8	27.6	111,862	—	—	—	—
富士電機	9	5.5	47,745	—	—	—	—
ソシオネクスト	3.5	13.2	35,633	—	—	—	—
日本電気	11	4.5	61,425	—	—	—	—
ルネサスエレクトロニクス	36	—	—	—	—	—	—
ソーグループ	8	35	98,192	—	—	—	—
キーエンス	1.2	0.5	34,250	—	—	—	—
ローム	20.8	—	—	—	—	—	—
村田製作所	30	9	24,318	—	—	—	—
東京エレクトロン	2	0.9	20,925	—	—	—	—
輸送用機器 (2.5%)							
デンソー	36	—	—	—	—	—	—
トヨタ自動車	—	23.8	63,367	—	—	—	—
精密機器 (－%)							
朝日インテック	15	—	—	—	—	—	—
その他製品 (3.4%)							
パンダダイナムコホールディングス	11.3	—	—	—	—	—	—
アシックス	—	20	52,170	—	—	—	—
オカムラ	—	16.4	32,865	—	—	—	—

銘柄	期首(前期末) 株数	当 株数	期 評価額	末 株数	期 評価額	末 株数	期 評価額
電気・ガス業 (－%)	千株	千株	千円	千株	千円	千株	千円
グリムス	15	—	—	—	—	—	—
陸運業 (2.0%)							
東海旅客鉄道	22	—	—	—	—	—	—
東京地下鉄	—	31	50,561	—	—	—	—
S Gホールディングス	18	—	—	—	—	—	—
海運業 (1.5%)							
商船三井	—	7	36,862	—	—	—	—
情報・通信業 (9.8%)							
SHIFT	1.5	—	—	—	—	—	—
インターネットイニシアティブ	—	17	48,994	—	—	—	—
インフォコム	23.4	—	—	—	—	—	—
オービック	1.6	—	—	—	—	—	—
KADOKAWA	16	—	—	—	—	—	—
東宝	—	11	67,485	—	—	—	—
カプコン	8	15	48,555	—	—	—	—
コナミグループ	—	3	44,040	—	—	—	—
ソフトバンクグループ	—	4	37,472	—	—	—	—
卸売業 (4.8%)							
豊田通商	10.3	—	—	—	—	—	—
三菱商事	10	18.8	51,371	—	—	—	—
サンリオ	—	14.5	67,976	—	—	—	—
小売業 (7.1%)							
セリア	—	15	42,630	—	—	—	—
J.フロント リテイリング	30	—	—	—	—	—	—
コスモス薬品	4.5	—	—	—	—	—	—
パナソニック・インターナショナルホールディングス	27	16.4	61,860	—	—	—	—
スギホールディングス	—	10	25,570	—	—	—	—
ニトリホールディングス	2.2	2.8	49,238	—	—	—	—
銀行業 (8.8%)							
楽天銀行	27	15.4	54,238	—	—	—	—
三菱UFJフィナンシャル・グループ	80	56	99,036	—	—	—	—
ふくおかフィナンシャルグループ	22.5	9	34,308	—	—	—	—
北洋銀行	—	74.1	32,159	—	—	—	—
保険業 (3.1%)							
第一生命ホールディングス	30	—	—	—	—	—	—
東京海上ホールディングス	—	13	77,610	—	—	—	—
その他金融業 (2.7%)							
オリックス	—	19.5	68,113	—	—	—	—
不動産業 (2.4%)							
パーク24	25.2	—	—	—	—	—	—
三井不動産	25.3	45	61,335	—	—	—	—
サービス業 (3.4%)							
リゾートトラスト	24.4	10	28,075	—	—	—	—
ベイカレント	—	11	57,937	—	—	—	—
乃村工藝社	50	—	—	—	—	—	—
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	株数・金額 銘柄数<比率>	株数・金額 銘柄数<比率>	株数・金額 銘柄数<比率>	株数・金額 銘柄数<比率>	株数・金額 銘柄数<比率>	株数・金額 銘柄数<比率>
1,014.8	52銘柄	789.1	51銘柄	2,509.163	<96.1%>		

(注1) 銘柄欄の () 内は、期末の国内株式評価額に対する各業種の比率です。

(注2) 合計欄の< >内は、期末の純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切捨ててあります。

■投資信託財産の構成

2024年11月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	千円 2,509,163	% 96.1
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	102,910	3.9
投 資 信 託 財 産 総 額	2,612,074	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨ててあります。％は、小数点第2位を四捨五入しています。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2024年11月10日)現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	2,612,074,208円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	81,489,014
株 式(評価額)	2,509,163,700
未 収 配 当 金	21,420,500
未 収 利 息	994
(B) 負 債	1,630,000
未 払 解 約 金	1,630,000
(C) 純 資 産 総 額(A－B)	2,610,444,208
元 本	254,234,071
次 期 繰 越 損 益 金	2,356,210,137
(D) 受 益 権 総 口 数	254,234,071口
1 万口当たり基準価額(C／D)	102,679円

- (注1) 期首元本額 438,628,981円
追加設定元本額 55,799,405円
一部解約元本額 240,194,315円
- (注2) 期末における元本の内訳
新光ジャパンオープンⅡ 246,937,320円
新光ジャパンオープン (変額年金) 7,296,751円
期末元本合計 254,234,071円

■損益の状況

当期 自2023年11月11日 至2024年11月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	62,303,601円
受 取 配 当 金	62,192,650
受 取 利 息	81,628
そ の 他 収 益 金	33,909
支 払 利 息	△4,586
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	785,069,651
売 買 益	996,745,572
売 買 損	△211,675,921
(C) 当 期 損 益 金(A＋B)	847,373,252
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	3,118,051,408
(E) 解 約 差 損 益 金	△2,057,615,118
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	448,400,595
(G) 合 計(C＋D＋E＋F)	2,356,210,137
次 期 繰 越 損 益 金(G)	2,356,210,137

- (注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注2) (E)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。
- (注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。